

# 小沢総裁へ

日本は、世界の中でたぐいまれな争いのない社会を聖徳太子の時代から「和を持って尊し」とされ、大陸と異なり争わなくても、気候風土が良く豊かな農業生産と海産物が得られる国で、強いリーダーが必要ない、また、誰も責任を取らなくても良いコンセンサス社会が形成されてきた、今日の日本。

自己主張出来ない国民性と

(有)西川経営オフィスサービス

中村会計

## 事務所便り

2010年7月20日(火) NO 128

地域から明るい未来を作ろう

教育方法が創造社会適応人材を育てない状況にある。独創的考えを日本社会が認めない風土がある。

◆全体的な主張  
日本は、特殊な国民性と国の仕組みをもっているが、激動の時代には、「普通の国」になる(変化する)べきである。

◆日本、日本人の特殊性を育んできた背景  
日本は周りを海で囲まれています。そこにいろいろな民族が渡来しているけれど、血なまぐさい争いは起きていません。それは非常に温暖な気候をもち、豊かな自然がある国だったからです。そのような環境の中で人々は、意見の対立を少なくすることを心がけました。なるべく「自己主張はおさえる」。日本のコンセンサス社会では、個人の意見を言う習慣がありませんでした。聖徳太子の「和をもって尊し」の社会では、リーダーが必要なかったのです。

### 04年9月4日の一新会講演(い)

◆日本のコンセンサス社会では、今日の地球規模で激動する世界をのりきれない

この、日本のコンセンサス社会「自己主張をおさえる」「リーダーがいらない」は、うまくいっているときはベストなやりかたでした。でも、うまくいかなくなると、誰も責任をとらなくなり、本当にどうしようもなくなります。これが今日の日本の混乱の根底にあるものだと思います。

本来、多数決をとるべきところを、日本の社会では(会社なども)、多数決をとらずに「地下」での合意によって物事を決めてきました。自民党と社会党で政権ができたことでも分かる通り、本来イデオロギーが違う者どうしがくっつけるのは、両方が「何事も地下で決める」というやりかたが同じだからです。これではだめです。対立はあっていい。主張しあって最後は多数決で決めればいいのです。

◆混乱を抜け出すことに必要なものは、一人ひとりの「意識革命」

この状況を脱却するには「自分で考え、自分で主張し、自分で行動する」必要があります。つきつめれば、日本人の「意識改革」「意識革命」

が必要となつてきています。どのように変えればいいかと言うと…

・アメリカのグラントドキャニオンには柵がない：「自律性を身につける」

・アメリカのテストでは先生の言ったことをそのまま答案用紙に書けば0点。日本は逆。テストは、自分の考えを書くもの。：「独創性を大事にする」。

日本人は優秀だが、勇気と決断が足りない。

最後に、私の好きなことば、映画「山猫」より、(革命家を支援する大地主に向かつて発せられた「自分に利のある現在の社会をなぜ変えようとするのか?」という質問に対する、大地主の答え)「変わらなければならない、変わらなければならない」

この真夏の三連休を、私は自転車三昧で過ごしました。二日目ラベンダーの瀬名高原へ、六百メートル手前でバンク、帰還に7時間の徒歩を覚悟しましたが車の救援(西川さん)で助かる。三日目は海の日、岩牡蠣(いわがき)が食べたくなり、金沢港きときと市場へ

## 海の牧師さん

ト日本一周のハレルヤ号(Kさん)と知り合いになりました。話し方がとても謙虚で優しい方です。帰つ

てブログで知ったのですが、牧師さんでした。その人のブログから、1極貧の時、お金が手に入る裸体画を描くように友人に薦められ、その気になったが、農民の生活に真実が有る、どうしても裸体画は書けなかった。：晩鐘、落穂ひろいを書いたミレーとあり、考え込む。：